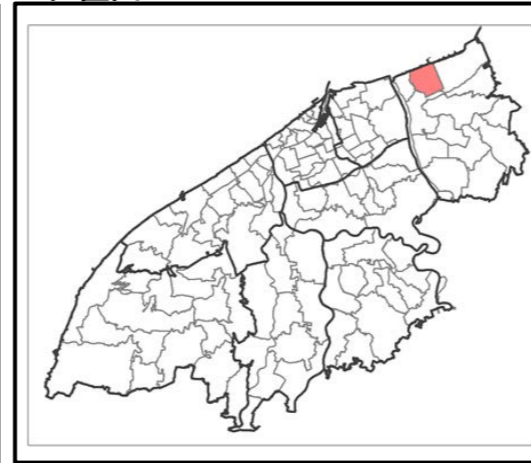


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

神谷内		
太夫浜		
太夫浜新町1・2丁目		
松浜東町2丁目		

●位置図



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]太夫浜小学校	15.7	4	○	—	全階可	○

●施設・団体

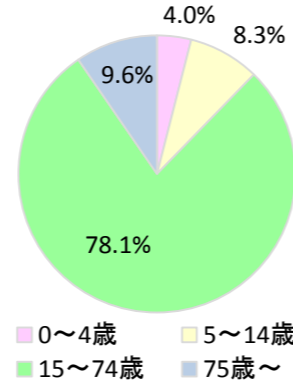
市役所・区役所等	—
警察・消防	—
消防団	北方面隊 南浜分団
水防倉庫	—
一時避難場所	陽光南公園
広域避難場所	—
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 太夫浜保育園 高齢者 福祉施設 松浜さくら園、まつはま園、希望の園 障がい者 福祉施設 太陽の村、おひさま、はまかぜ

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]松浜小学校	2.6	4	○	3階以上	全階可	○
[ヒ][ツ]松浜中学校	6.4	4	○	3階以上	全階可	○
[ヒ]北地区コミュニティセンター	1.9	2	○	—	2階以上	○

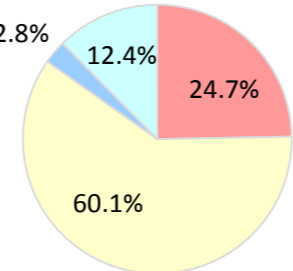
●人口

項目	数	地区の割合	市の割合
総人口	4,780人		
0～4歳	190人	4.0%	4.0%
5～14歳	398人	8.3%	8.5%
15～74歳	3,733人	78.1%	74.6%
75歳～	459人	9.6%	12.9%
65歳以上人口	1,032人	21.6%	26.0%
世帯数	1,964世帯		
一世帯あたり人口	2.4人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	830人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	4,134人	夜間の86.5%	



●建物関連指標

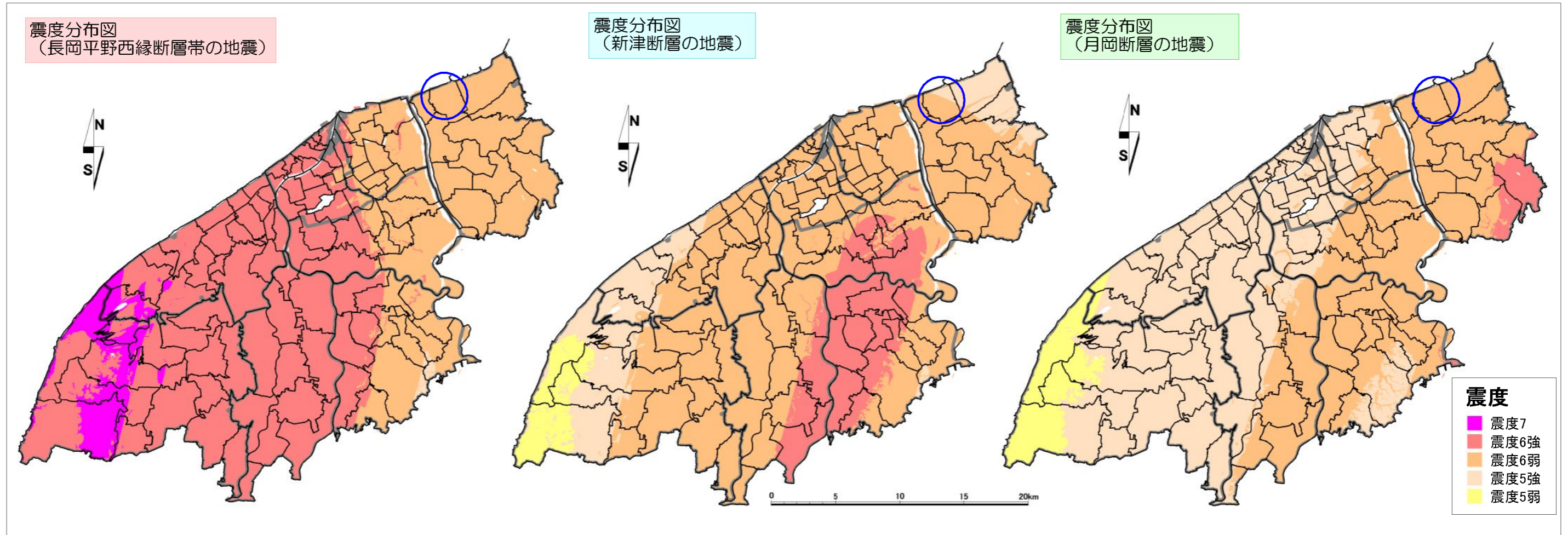
	総棟数	地区の割合	市の割合
木造	2,150棟		
S55年以前建築	531棟	24.7%	44.2%
S56年以降建築	1,292棟	60.1%	46.7%
計	1,823棟	84.8%	90.9%
非木造	60棟	2.8%	3.4%
S55年以前建築	267棟	12.4%	5.7%
S56年以降建築	327棟	15.2%	9.1%
計	327棟		
S56年以降建築物	1,559棟	72.5%	52.4%



S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。

●災害危険性の評価

地震・津波	地区内の宅地等の多くが立地する砂丘は、比較的良好な地盤であり、液状化の可能性が低い。津波は新井郷川分水路から侵入し、地区北部や地区南西部の低地で浸水が想定されている。
洪水・土砂	阿賀野川の洪水及び新井郷川・新発田川流域の洪水によって、地区南部の低地で浸水の可能性が高い。砂丘の縁辺部には、土砂災害警戒区域等が分布しており、がけ崩れの危険がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

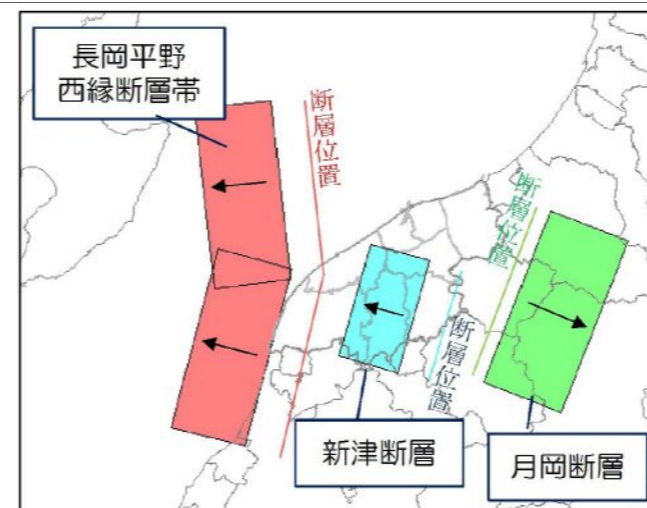
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

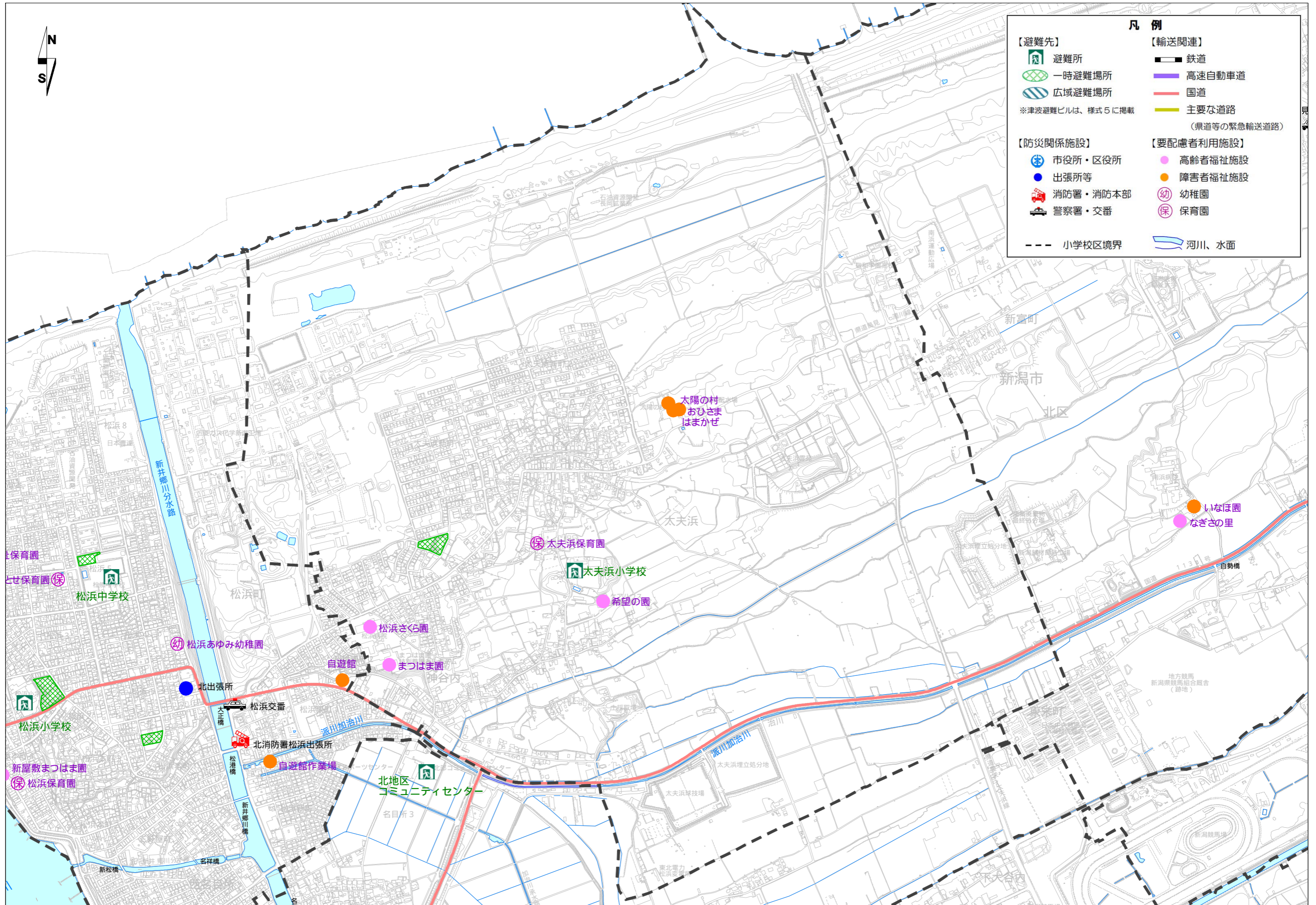
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



← は、断層の傾きを示しています。



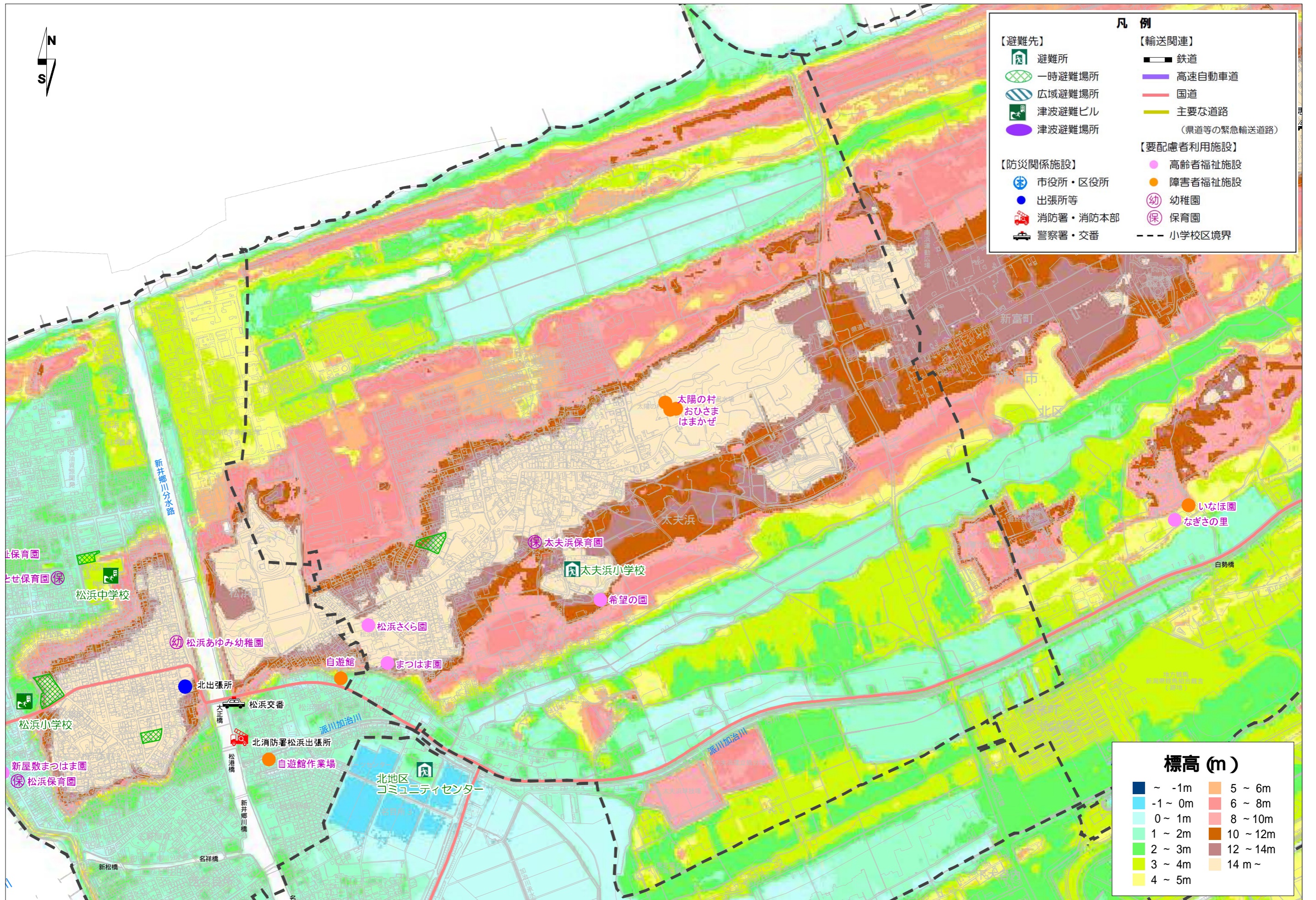
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)





〔出典〕 航空写真 (平成26年4月)



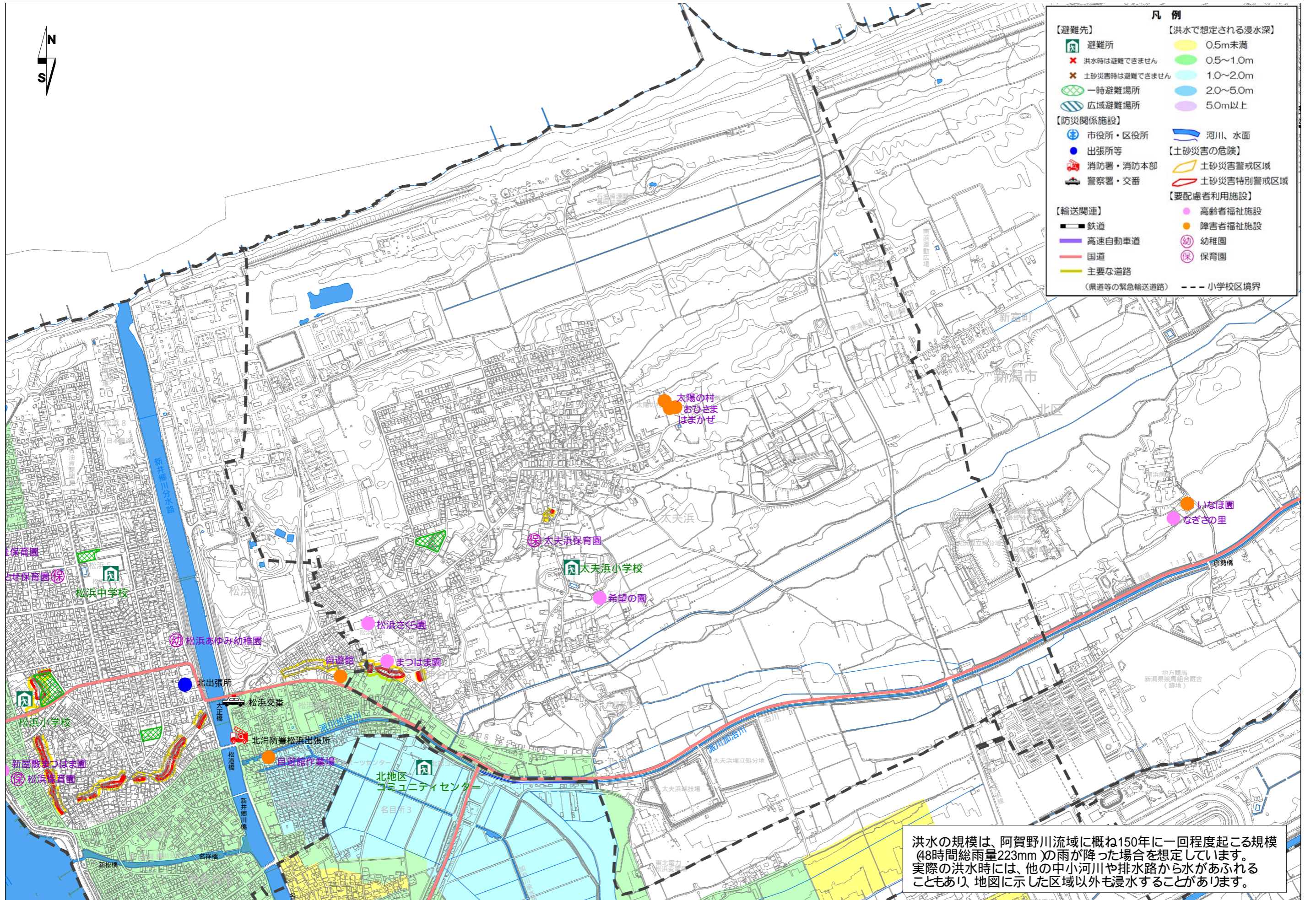


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（阿賀野川）

太夫浜小学校区

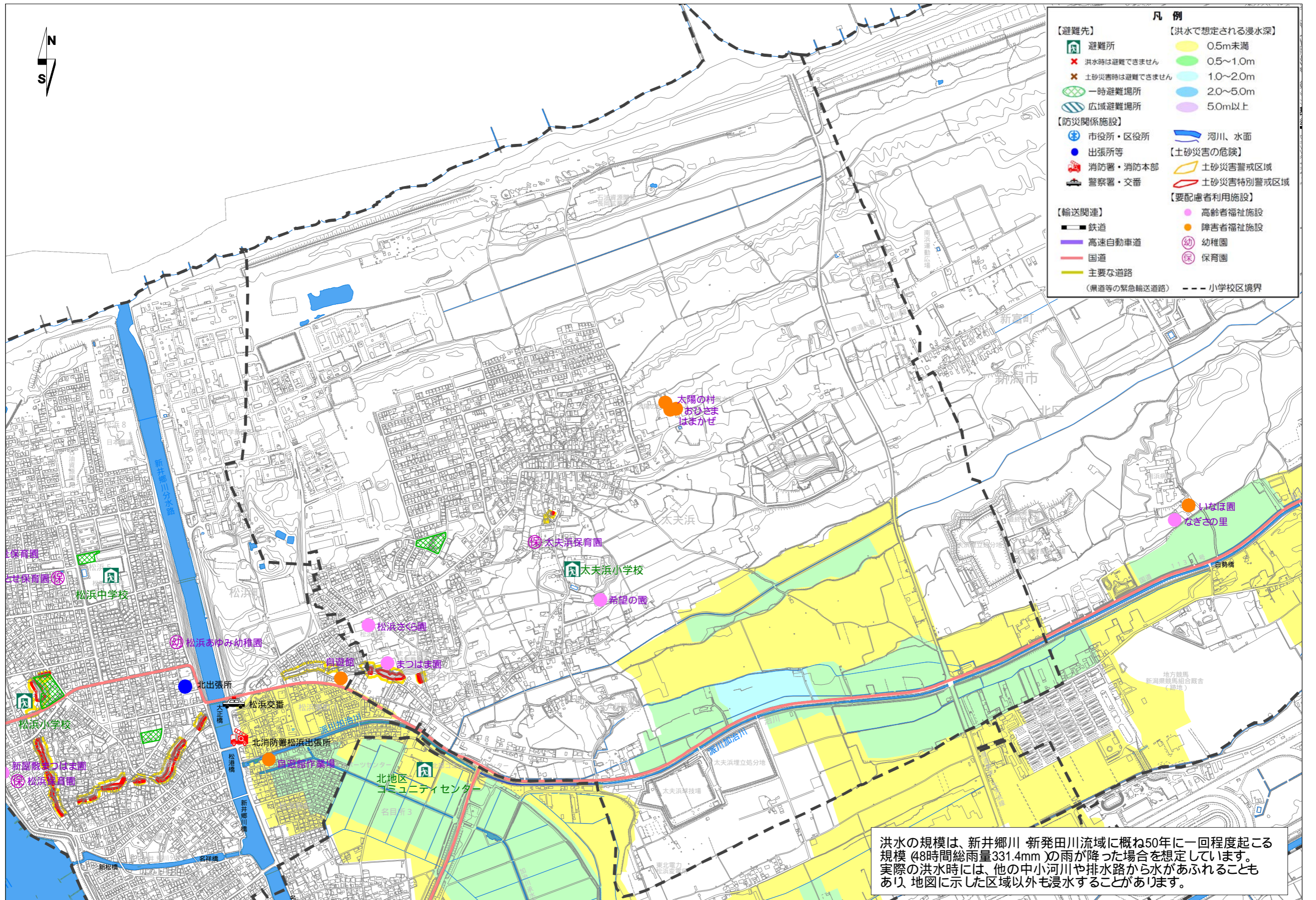


凡例	
【避難先】	【洪水で想定される浸水深】
避難所	0.5m未満
洪水時は避難できません	0.5~1.0m
土砂災害時は避難できません	1.0~2.0m
一時避難場所	2.0~5.0m
広域避難場所	5.0m以上
【防災関係施設】	河川、水面
市役所・区役所	【土砂災害の危険】
出張所等	土砂災害警戒区域
消防署・消防本部	土砂災害特別警戒区域
警察署・交番	【要配慮者利用施設】
【輸送関連】	高齢者福祉施設
鉄道	障害者福祉施設
高速自動車道	幼稚園
国道	保育園
主要な道路	
(県道等の緊急輸送道路)	
	--- 小学校区境界

洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量223mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)





洪水の規模は、新井郷川 新発田川流域に概ね50年に一回程度起こる規模（48時間総雨量331.4mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 新井郷川 新井郷川分水路 福島潟 福島潟放水路及び派川加治川浸水想定区域（新潟県、平成16年6月23日）

